

令和4年度
青森県漂着ごみ組成調査業務
報告書

深浦町風合瀬海岸

東通村尻屋海岸

内外地図株式会社

2023年1月

目次

1. 業務概要	1
1.1 目的	1
1.2 調査地点	1
1.3 調査実施日	3
2. 漂着ごみの組成調査	4
2.1 調査概要	4
2.2 調査方法	4
2.3 調査結果	7
2.3.1 深浦町風合瀬海岸	7
2.3.2 東通村尻屋海岸	11

1. 業務概要

業務の概要について、以下に示す。

1.1 目的

漂着ごみ対策を適切に進めていくには、漂着ごみの実態把握及び発生抑制対策が重要であり、そのためには、漂着ごみの組成や存在量を長期的に継続して把握することが必要である。このため、本業務では、環境省及び青森県による過年度の漂着ごみのモニタリング結果と比較可能な方法で漂着ごみの実態把握を行うことを目的とする。

1.2 調査地点

本調査における調査地点について、図1～3に示す。



図1 調査地点の位置（赤丸：調査地点）

1. 深浦町風合瀬海岸
2. 東通村尻屋海岸

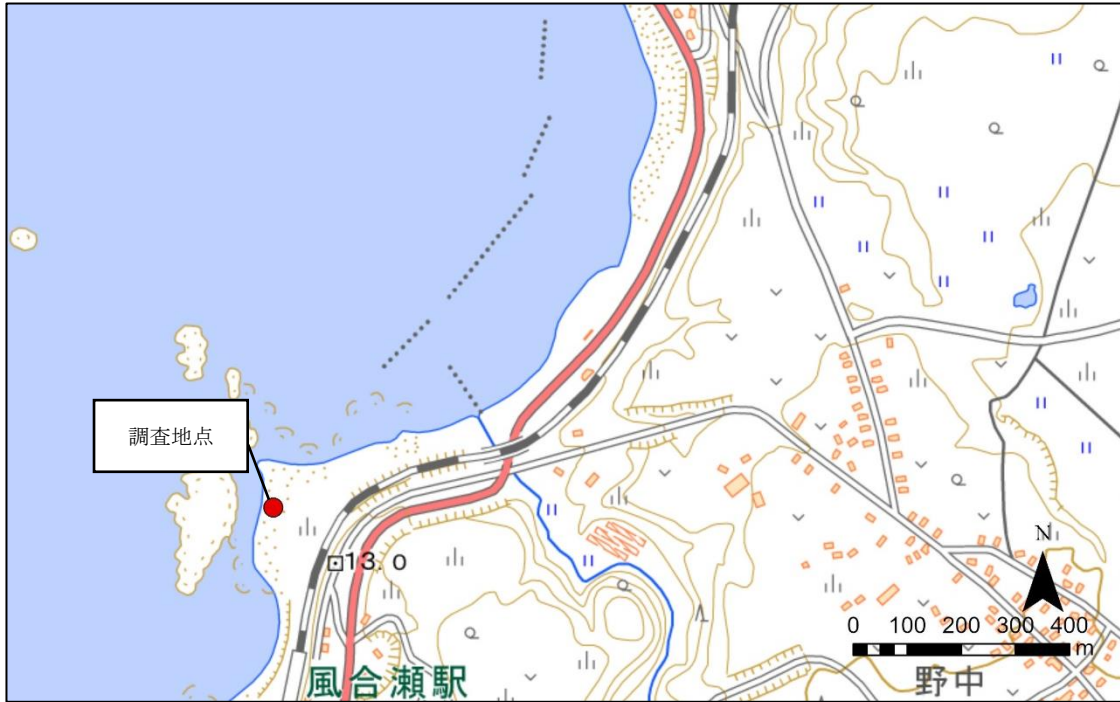


図2 深浦町風合瀬海岸（赤丸：調査地点）



図3 東通村尻屋海岸（赤丸：調査地点）

1.3 調査実施日

1. 深浦町風合瀬海岸 令和4年10月6～7日
2. 東通村尻屋海岸 令和4年10月5日

調査日は、豪雨や台風などの異常時を避け、平常時とするため、10日間天気予報などによる長期予報を参照し、降雨や風の影響による調査実施が困難な状況を除き、調査地点での清掃・イベント等の開催予定のヒアリング結果を踏まえて調査実施日を選定した。

2. 漂着ごみの組成調査

調査について、以下に示す。

2.1 調査概要

50m の調査範囲の長さ 2.5 cm以上の漂着ごみを回収し、分類・測定する（図 4）。

2.2 調査方法

令和 4 年度青森県漂着ごみ組成調査業務仕様書のほか、環境省作成の「地方公共団体向け漂着ごみ組成調査ガイドライン（令和 2 年 6 月第 2 版）」（以降、ガイドラインと記載する）に従って調査を実施した。なお、原則として地元で利用されている海藻類の水産資源は回収していない。

調査範囲に植生がある場合は、植物類をむやみに除去したり、植生内に立ち入ったりしないように配慮した。

回収したごみについては、表 1「分類表」に従って分類した。ペットボトル、ペットボトルのキャップ・ふた及び漁業用の浮子（プラ以外を含む。）については、バーコードやラベル等から表記が確認できるものについて表記言語別に分類、記録した。

調査のために回収したごみは、分類・計測が終了後、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び各地方公共団体の廃棄物処理計画に則り適正に処理を行った。マニフェストなど必要なものを整備した。

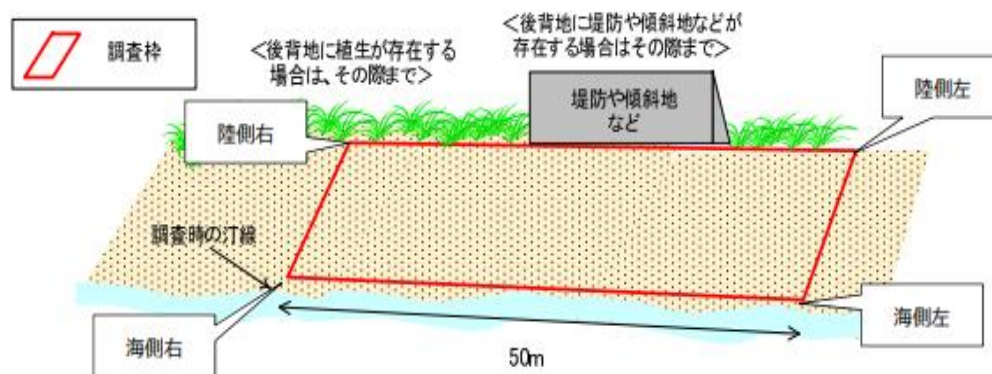


図 4 調査区域の設定

表1 分類表

大分類	必須項目	オプション項目	ブラ分類	
プラスチック	ボトルのキャップ、ふた	ボトルのキャップ、ふた	容器包装	
	ボトル<1L	飲料用(ペットボトル)<1L	飲料用(ペットボトル)<1L	容器包装
		その他のプラボトル<1L	その他のプラボトル<1L	容器包装
		飲料用(ペットボトル)≥1L	飲料用(ペットボトル)≥1L	容器包装
		その他のプラボトル類≥1L	その他のプラボトル類≥1L	容器包装
	ストロー	ストロー	製品	
	マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等	マドラー、フォーク、ナイフ、スプーン等	製品	
	食品容器(ファーストフード、コップ、ランチボックス、それに類するもの)	コップ、食器	コップ、食器	製品
		食品容器	食品容器	容器包装
	ポリ袋(不透明&透明)	食品の容器包装	食品の容器包装	容器包装
		レジ袋	レジ袋	容器包装
		その他プラスチック袋	その他プラスチック袋	容器包装
	ライター	ライター	製品	
	シリンジ、注射器	シリンジ、注射器	製品	
	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	製品	
	シートや袋の破片	シートや袋の破片	その他	
	硬質プラスチック破片	硬質プラスチック破片	その他	
	ウレタン	ウレタン	その他	
	浮子(ブイ)(漁具)	浮子(ブイ)(漁具)	海域由来	
	ロープ、ひも(漁具)	ロープ、ひも(漁具)	海域由来	
	アナゴ筒(フタ、筒)(漁具)	アナゴ筒(フタ、筒)(漁具)	海域由来	
	カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)(漁具)	カキ養殖用まめ管(長さ1.5cm)(漁具)	海域由来	
	カキ養殖用パイプ(長さ10-20cm)(漁具)	カキ養殖用パイプ(長さ10-20cm)(漁具)	海域由来	
	漁網(漁具)	漁網(漁具)	海域由来	
	その他の漁具(漁具)	釣りのルアー、浮き	釣りのルアー、浮き	海域由来
		かご漁具	かご漁具	海域由来
		釣り糸	釣り糸	海域由来
		その他の漁具	その他の漁具	海域由来
	その他	たばこ吸殻(フィルター)	たばこ吸殻(フィルター)	製品
		生活雑貨(歯ブラシ等)	生活雑貨(歯ブラシ等)	製品
		花火	花火	製品
玩具		玩具	製品	
プラスチック梱包材		プラスチック梱包材	容器包装	
6パックホルダー		6パックホルダー	容器包装	
苗木ポット		苗木ポット	製品	
分類に無いもので多数見つかった場合には記載		分類に無いもので多数見つかった場合には記載	品目による	
その他		その他	品目による	
(発泡スチロール)	コップ、食品容器	食品容器(発泡スチロール)	容器包装	
		コップ、食器(発泡スチロール)	製品	
	発泡スチロール製フロート、浮子(ブイ)	発泡スチロール製フロート、浮子(ブイ)	海域由来	
	発泡スチロールの破片	発泡スチロールの破片	その他	
	発泡スチロール製包装材	発泡スチロール製包装材	容器包装	
	その他	分類に無いもので多数見つかった場合には記載	分類に無いもので多数見つかった場合には記載	品目による
その他		その他	品目による	

大分類	必須項目	オプション項目	ブラ分類
ゴム	ゴム	タイヤ 玩具、ボール 風船 靴(サンダル、靴底含む) ゴムの破片 分類に無いもので多数見つかった場合には記載 その他	
ガラス、陶器	ガラス、陶器	建築資材 食品容器 ガラス、陶器の破片 食品以外容器 コップ、食器 電球 蛍光管 分類に無いもので多数見つかった場合には記載 その他	
金属	金属	ビンのふた、キャップ、プルタブ アルミの飲料缶 スチール製飲料用缶 金属製コップ、食器 フォーク、ナイフ、スプーン等 その他の缶(ガスボンベ、ドラム缶、バケツ等) 金属片 ワイヤー、針金 金属製漁具 分類に無いもので多数見つかった場合には記載 その他	
紙、ダンボール	紙、ダンボール	紙製コップ、食器 タバコのパッケージ(フィルム、銀紙を含む) 花火 紙袋 食品包装材 紙製容器(飲料用紙パック等) 紙片(段ボール、新聞紙等を含む) 分類に無いもので多数見つかった場合には記載 その他	
天然繊維、革	天然繊維、革	ロープ、ひも 分類に無いもので多数見つかった場合には記載 その他	
木(木材等)	木(木材等)	木材(物流用パレット、木炭等含む) 分類に無いもので多数見つかった場合には記載 その他	
電化製品、電子機器	電化製品、電子機器	電化製品、電子機器	
自然物	自然物	灌木(植物片を含む、径10cm未満、長さ1m未満) 流木(径10cm以上、長さ1m以上) 分類に無いもので多数見つかった場合には記載 その他	
人力で動かせない物			

2.3 調査結果

調査結果は、「漂着ごみデータシート」及び「言語表記等調査のデータシート」に取りまとめた。以下に、本調査の結果を示す。

2.3.1 深浦町風合瀬海岸

本調査で回収された漂着ごみは、個数550個(自然物に含まれる灌木は、個数不明)、容積5909.6L、重量848.22kgであった(表2)。

自然物と人工物の組成は、個数は人工物が96%、容積は自然物が97%、重量は自然物が93%を占めており、調査海岸の様子も流木、灌木が多く見られた(図5、6)。また、容積、重量に自然物が多かった一因として、比較的大きな流木が多くあったことも挙げられる。

人工物の組成では、プラスチックが最も多く個数が80%、容積が55%を占め、重量では木・木材系が50%を占め最も多かった。一方で、プラスチックは重量においても47%と約半数を占めていた。プラスチックの中では、ロープ・ひも(漁具)が個数、容積、重量の全てで最も高い値となった。

ペットボトルの言語分類では、日本が6個、中国・台湾が5個であり2つの表記言語区分で全体の74%を占めている。ペットボトルのキャップは不明が45個で最も多く82%を占める結果となった。漁業用の浮子(プラ以外を含む。)は、不明が7個で最も多く70%を占める結果となった(表3、図7)。



図5 調査区域の回収前・回収後の様子

表 2 2分類別の組成（左表）と人工物の大分類別の組成（右表）

項目	個数(個)	容積 (L)	重量 (kg)	項目	個数 (個)	容積 (L)	重量 (kg)
人工物	526	206.2	55.81	プラスチック	418	114.1	26.19
自然物	24	5703.4	792.41	発泡スチロール	26	1.7	0.04
合計	550	5909.6	848.22	ゴム	4	0.8	0.25
				ガラス・陶器	12	3.0	1.24
				金属	22	1.5	0.37
				紙・段ボール	1	0.1	0.01
				天然繊維・革	0	0.0	0.00
				木・木材系	43	85.0	27.71
				電化製品・電気機器	0	0.0	0.00
				その他	0	0.0	0.00
				人工系合計	526	206.2	55.81

※自然物に含まれる灌木については個数不明

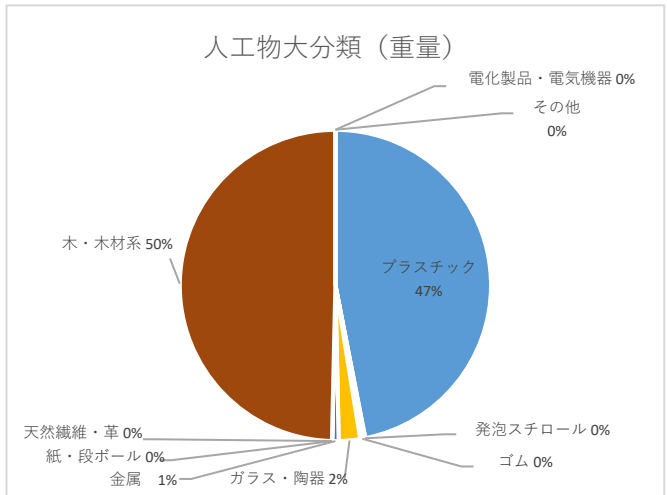
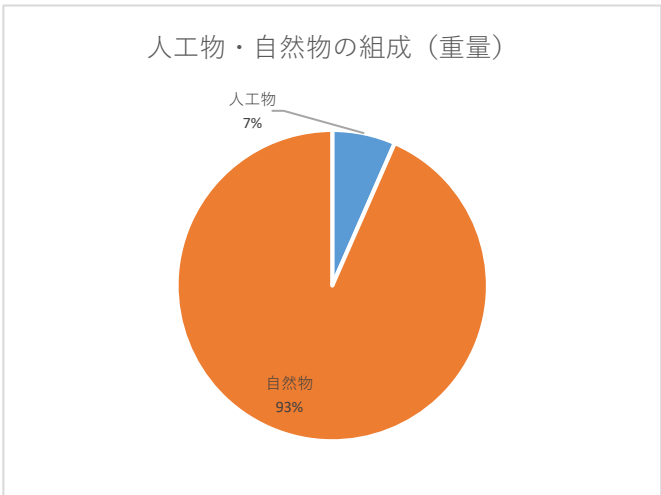
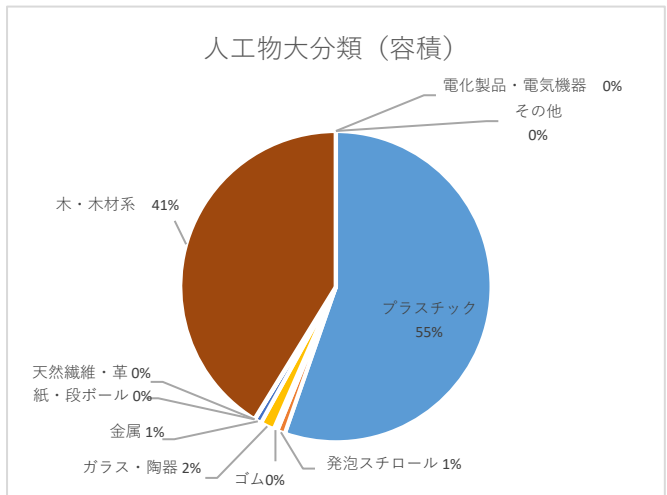
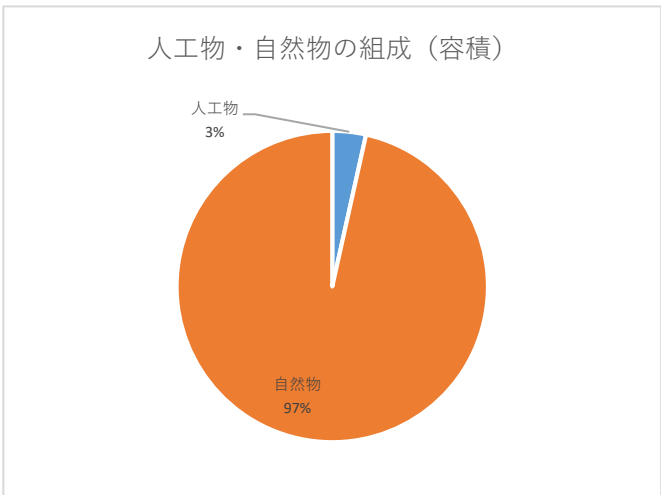
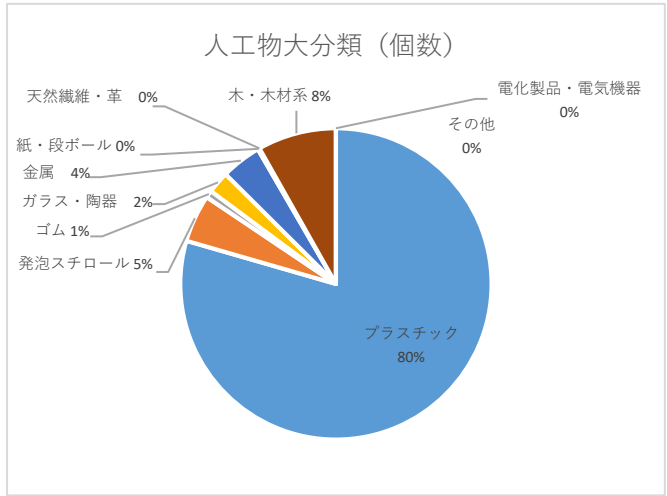
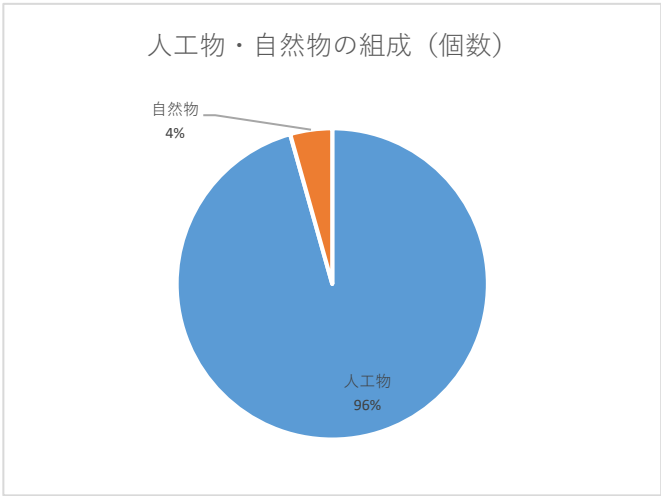


図 6 2 分類別の組成（左図）と人工物の大分類別の組成（右図）

表 3 言語分類の結果

表記言語	ペットボトル (個数)	ペットボトルの キャップ (個数)	漁業用の浮子 (個数)
日本	6	2	0
中国・台湾	5	4	2
韓国	2	2	0
ロシア	0	0	0
不明	2	45	7
英語	0	2	1
合計	15	55	10

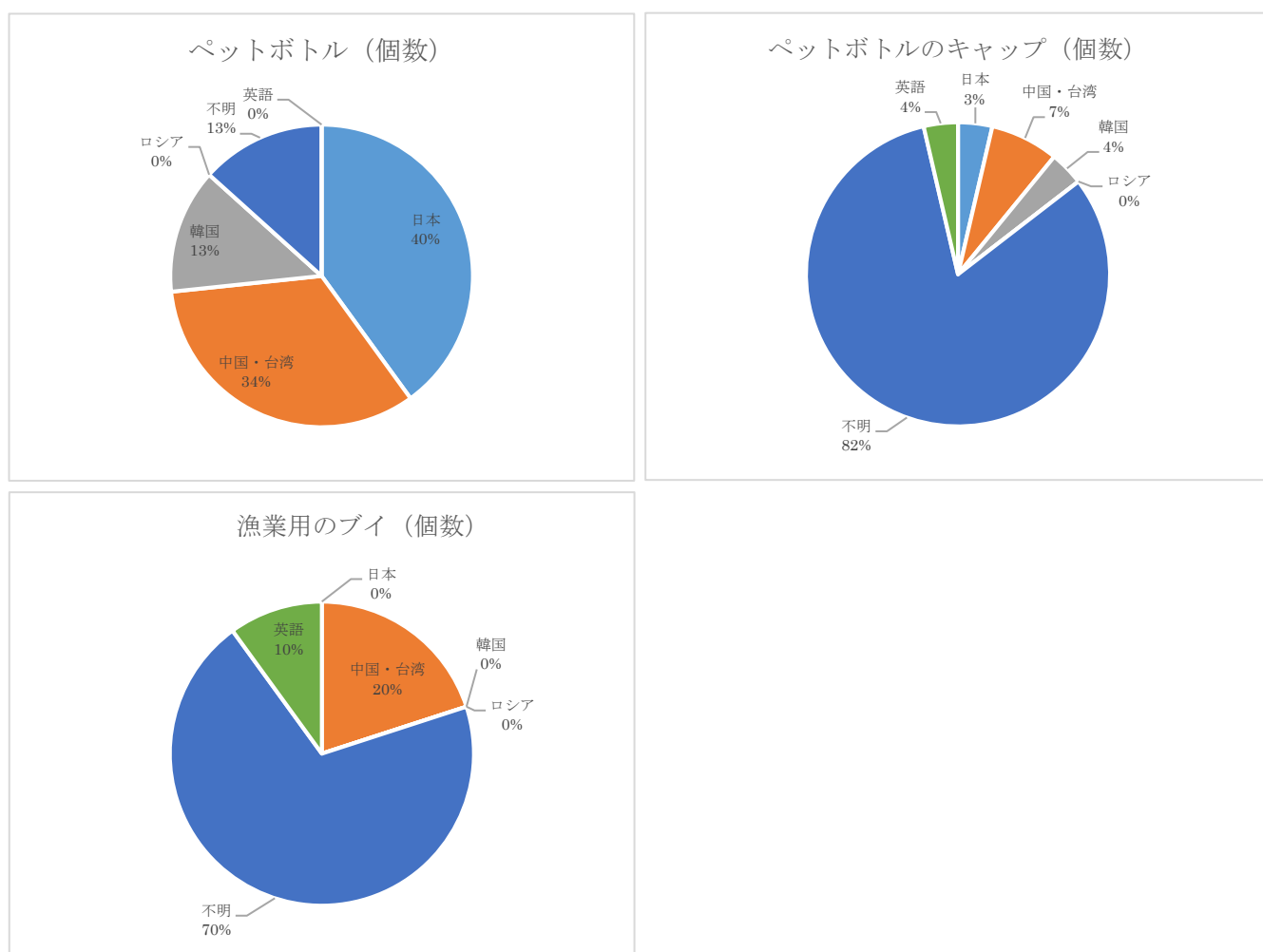


図 7 言語分類の国別割合

2.3.2 東通村尻屋海岸

本調査で回収された漂着ごみは、個数341個(自然物に含まれる灌木は、個数不明。)、容積2155.8L、重量162.73kgであった(表4)。

自然物と人工物の組成は、個数は人工物が98%、容積は自然物が81%、重量は自然物が68%を占めており、同様に調査海岸の様子も流木、灌木が多く見られた(図8、9)。

人工物の組成では、プラスチックが最も多く個数が77%、容積が86%、重量が69%を占めている。プラスチックの中では、個数はロープ・ひも(漁具)、容積は1L以上のその他のプラボトル類、重量は浮子(漁具)が最も高い値となった。

ペットボトルの言語分類では、日本が20個であり全体の54%を占める。ペットボトルのキャップは日本、中国・韓国、英語が各1個、不明の2個が全体の40%を占める結果となった。漁業用の浮子(プラ以外を含む。)は、大半が不明であった。製造国が判明したものは、中国・台湾が5個であり全体の38%を占めている(表5、図10)。

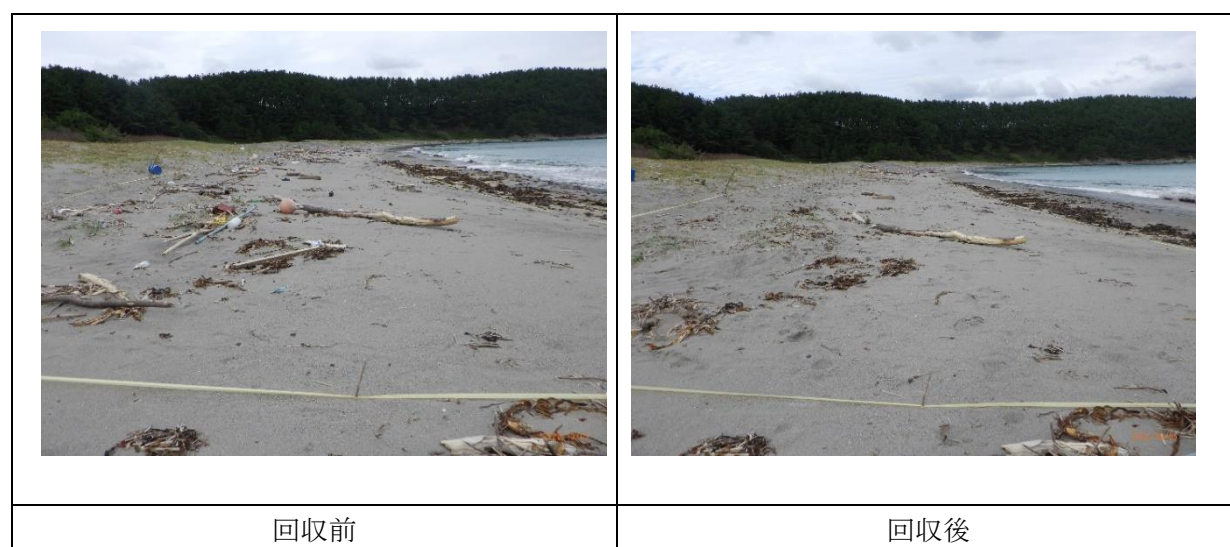


図8 調査区域の回収前・回収後の様子

表 4 2 分類別の組成（左表）と人工物の大分類別の組成（右表）

項目	個数(個)	容積 (L)	重量 (kg)
人工物	333	402.1	52.61
自然物	8	1753.7	110.12
合計	341	2155.8	162.73

※自然物に含まれる灌木については個数不明

項目	個数(個)	容積 (L)	重量 (kg)
プラスチック	258	342.8	36.32
発泡スチロール	16	7.7	0.31
ゴム	5	0.4	0.51
ガラス・陶器	22	4.5	3.90
金属	9	1.0	0.45
紙・段ボール	4	0.7	0.19
天然繊維・革	0	0.0	0.00
木・木材系	19	45.0	10.93
電化製品・電気機器	0	0.0	0.00
その他	0	0.0	0.00
人工系合計	333	402.1	52.61

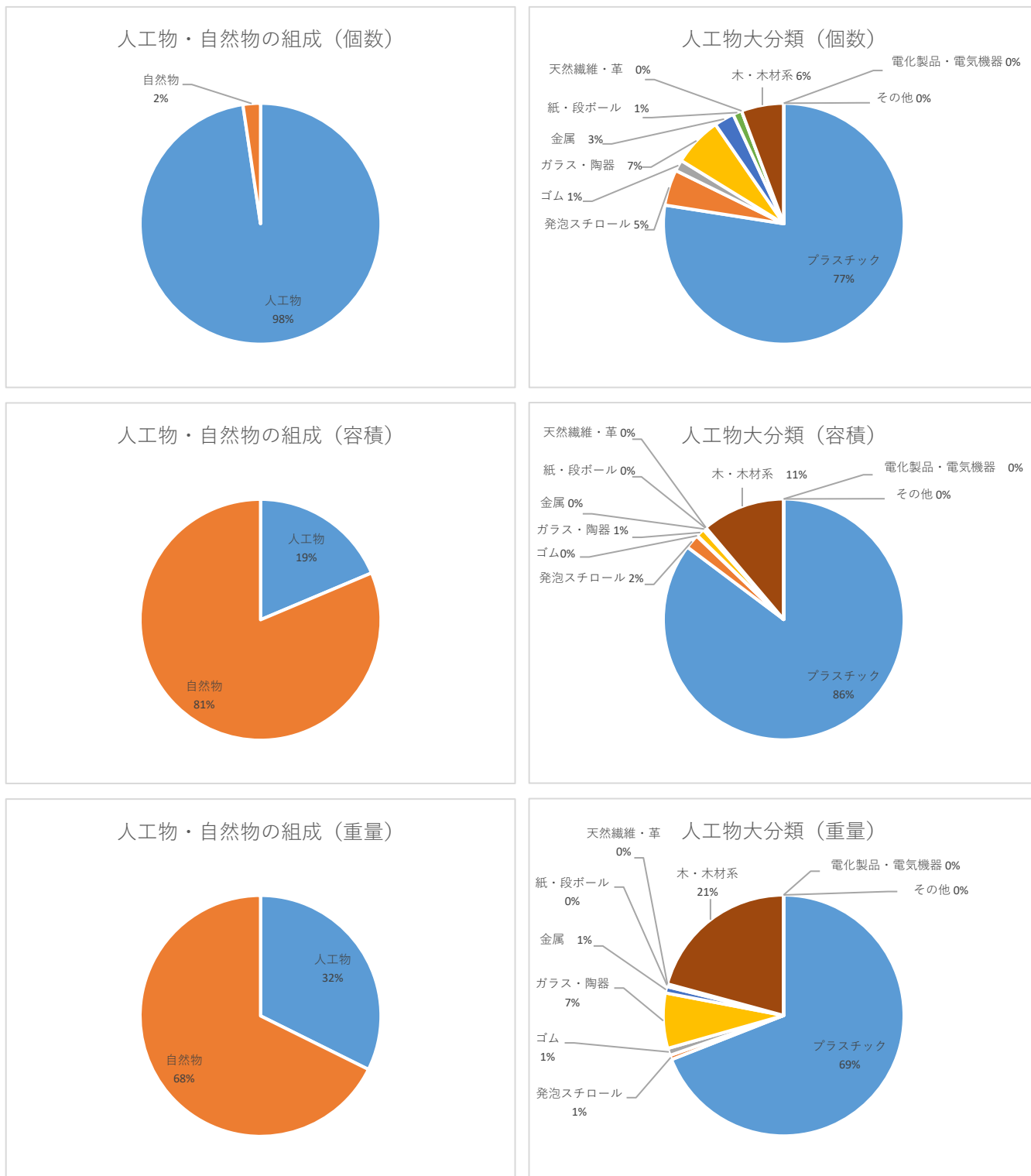


図9 2分類別の組成（左図）と人工物の大分類別の組成（右図）

表5 言語分類の結果

表記言語	ペットボトル (個数)	ペットボトルの キャップ (個数)	漁業用の浮子 (個数)
日本	20	1	1
中国・台湾	3	1	5
韓国	4	0	1
ロシア	0	0	0
不明	9	2	6
英語	1	1	0
合計	37	5	13

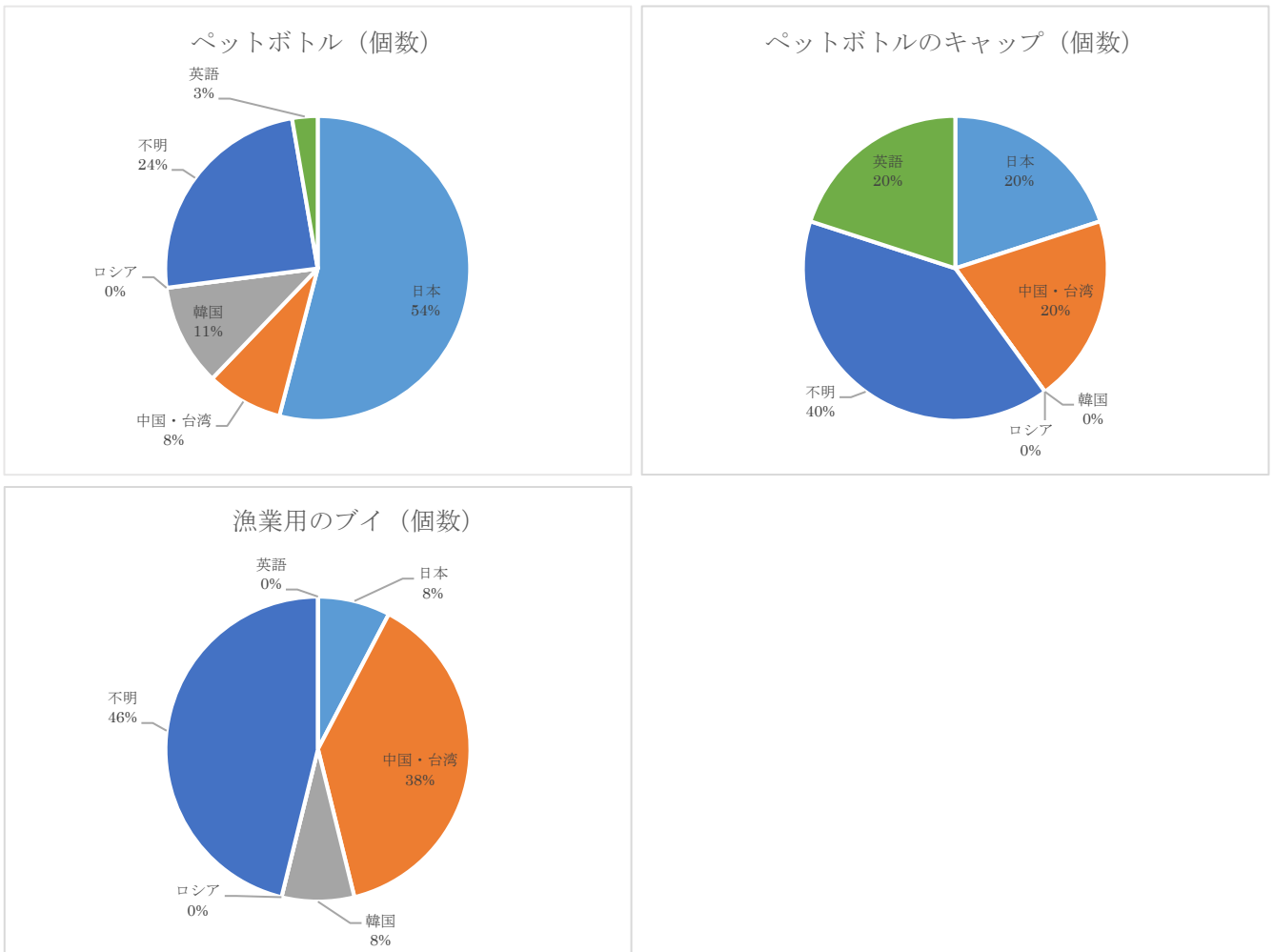


図10 言語分類の国別割合